

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

借入と返済の攻防 (預貸率は低下する)

先週のこと、ある中小企業にお邪魔したとき、「この前、信金さんに泣きつかれて困った」という話が出ました。話の内容は、信金からの借入金を調達全体の都合から地銀に切り替えようとしたところ、1口しか貸出のない信金が「ゼロになっては困るので何とかしてくれ」というよくある話でしたが、今回は今にも泣き出さんばかりの表情でしつこく食い下がったという所が違ったと話題となったのです。信金だけでなく金融機関は総じてかなりの貸出難にあるという話をきいていたのですが、改めて「それほどなのか」と思いました。その信金職員は、多分、帰ると上司にきつく問われる(怒られる)のでしょう。その姿が目蓋に浮かびますが、そこには顧客不在の道を歩んできた金融界の荒野が垣間見えました。

一般業界にあっては、損益計算書の一番上にくる「売上高」をもたらしてくれる(当然「利益」ももたらしてくれる)お客様を最も大切にするのは当たり前のことですが、銀行界は違います。大分変わってきたと思いたいのですが、やはり基本的な所で違うのです。彼らは、「売上」をもたらしてくれる顧客(融資先)は、第一に「貸してやっている存在」であり、第二に「いつ倒れるかもしれない危険な存在」なのです。そして漸く第三番目に「金利や手数料を支払ってくれる有り難い存在」となってくるのです。優越的地位の濫用という言葉はご存知だと思いますが、相互の関係を示す言葉としてぴったりだなと思ってしまうほどです。金融関係者は「違う」と主張するでしょうが、負債比率の高い多くの中小企業の実感もそれに近いのではないのでしょうか。

そうであっても高度資本主義経済に不可欠な金融機能をもった銀行は、その機能ゆえに経済界で重要な地位を占めてきました。今もそうです。かつて「地域の殿様」と揶揄された地銀も、流石に今では殿様のように振舞うことはないと思いますが、それでも冒頭のような話を聞くと銀行の中奥深くでは昔の感覚が幅を利かし顧客不在が横行しているのではないかと疑いたくなります。その経営者も云っていましたが、顧客のためを考え行動してくれれば云われなくともきちんと「お返しはする」のが普通の企業の行動原理です。そ

うした姿勢は商人の最も基本的な姿勢だと思いますが、その姿勢を失っているように見える銀行が今資金運用難に陥っています。集め集まった預金を本業である貸出に廻すことが難しくなっているのです。

その結果起こっているのが「預貸率の低下」です。預貸率とは銀行が預かっている預金に対し、どの程度貸出に廻しているかを示す数値ですが、日銀公表資料によると近時は下表のようになっています。

	類別	預金残	貸出残	預貸率
09/06月	都銀	264	210	79%
	地銀	264	192	72%
09/12月	都銀	265	208	78%
	地銀	266	193	72%
10/05月	都銀	274	202	73%
	地銀	269	193	71%

(金額単位：兆円)

「云うほどそんなに減っていないではないか」という声が聞こえてきそうですが、昔を知るものは感慨を覚える筈です。昔都銀は「オーバーローン」(預金残以上の貸出残がある状態)が当たり前でしたし、たった10年前でも都銀は90%、地銀は80%程度あったのです。今や余資(貸出に廻せないで余っている資金)が溢れ、有価証券運用に傾斜せざるを得なくなっています。ご存知の通り、有価証券運用ではリスクを取らなければ期待する収益は上げられません。安全確実な運用では、銀行員の高い給与を賄うことは出来ないのです。だからこそ、何とか高い収益が期待できる貸出を増やしたいと考えているのです。

勿論、貸出が減ってしまう理由は彼らの優越的姿勢にあるものではありません。よく云われるように「資金需要がない」のも大きな理由の一つです。そして、資金需要を生み出す経済的環境そのものが悪化している中で、財務体質改善に向け努力している中小企業にとって、銀行借入依存を下げるのが大きな課題となっているという現実があるのだと思います。端的に云えば、最早銀行の意向に添うような財務行動を取ることが極めて困難になっているのです。当然、競合激化の中貸出金利は下がります。日銀によれば、4月の銀行新規貸出金利は平均で短期が遂に1%を切り0.93%に、長期が1.347%まで下がっています。貸出金利動向を見る限り、銀行もその存続に向け必死なのです。借入と返済の攻防はこれからも続きます。

発信日：2010.6.19 第613号

《複製・転載等をご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp